

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370200297		
法人名	社団法人医療法人 新和会		
事業所名	認知症老人グループホーム 柿の木ホーム		
所在地	〒027-0063 岩手県宮古市山口五丁目3-30 (電話) 0193-62-4048		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成21年2月9日

## 【情報提供票より】(平成20年10月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		460 円

### (4) 利用者の概要(10月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	78 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮古山口病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社団法人医療法人新和会の運営するグループホーム柿の木ホームは、近接して同法人が運営する山口病院が東側に、老人保健施設が西側にあり、研修や学習会の合同実施のほか、行事等の機会には利用者を含めた交流が図られている。職員は「利用者の出来ることを引き出す」ことを介護や支援の指標としているなかで、それぞれに出来ることの役割や楽しみを共にして、「今日も良く出来ましたね」と相互に励ましや支え合いの声かけをしながら、張り合いのある生活を支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で話題となった看取り等について職員間では話し合い等の機会を持って取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活かしながら、職員全員で評価項目に取り組み、話し合いを行った後に管理者がまとめている。評価を記入することにより職員の気づきが多々あり、具体的な改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回定期的に開催されている。会議ではホームの利用者の近況の報告、ホームの行事等の報告を行っている。地震・防火対策について、地域ぐるみの対策を打ち出すべきとの話し合いがあり、今後、警察や関係機関から意向の伺うべきなどの積極的な意見が出され、ホームの運営に生かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「柿の木ホームだより」の発行で状況を知らせているほか、月に1回の家族の来訪時に、健康状態や近況を詳しく伝え、意見や要望等も聞き入れるようにしている。また預かり金の収支は書面で家族には伝え、緊急時等については、その都度家族に電話連絡をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長から様々な情報を頂き、また市の広報などの情報を参考としながら地域の行事等に出向いているほか、招待を受けた諸会合や行事にはできるだけ参加して交流を図っている。また、地元住民のボランティア活動や隣接の老健施設の行事等に参加するなど、さまざまな機会を通じて地域交流を図っている。

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の具体化に向け、①「・・・認知症の緩和」には「私の楽しみ」、②「・・・能力に応じた役割」には「今日も出来ました」、③「・・・明るく生きがい」には「体力アップ」、④「・・・家族との結びつき」は「困っています(混乱・不穏等)」、今年度新たに実践に向けた指針を設定し、施設内にも掲示して共有を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出来ることをサポートし、出来ないことや拒否した事柄には、丁寧な言葉掛けなどの援助を行っている。指針の実現に向け、一人ひとりの利用者の様子や会話から状況を把握して、毎月のケアカンファレンスでケース検討を行い、手ごたえを記録する形で取り組んでいる。	○	理念の具現化に向けた対応記録等の累積は、今後の利用者に対する理念の実践として生きることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長から様々な情報を頂き、また市の広報などの情報を参考としながら地域の行事等に出向いているほか、招待を受けた諸会合や行事にはできるだけ参加して交流を図っている。また、地元住民のボランティア活動や隣接の老健施設の行事等に参加するなど、さまざまな機会を通じて地域交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価の意義について話し合い、前年度の外部評価結果を参考にしながら自己評価に取り組んでいる。話し合いの中で、理念の具体化に向けた改善点やケアプランの様式や記録のあり方等々、多くの課題や気づきが得られたとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的開催され、会議では利用者の近況の報告、行事等の報告を行っている。また防火対策を話題とした際には、ホームの立地条件等を踏まえたうえで、地域ぐるみの対策を打ち出すべきとの話し合いが行われ、今後、警察や関係機関との指導や助言を仰ぎながら、具体的な計画づくりに取り組むとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当者が来訪し、利用者の暮らしぶりを実際に見学している。またホームで分からないことについて介護保険課以外にも相談して助言等を頂くなど、良好な関係が出来ており生活全般に亘るサービスの質の向上につながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「柿の木ホームだより」で日常の活動状況を知らせているほか、月に1回来訪する家族に、健康状態や近況を詳しく伝え、意見や要望等も聞き入れるようにしている。また預かり金の収支は書面で家族には報告している。なお、緊急時については、その都度家族に電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顔をつき合わせての話合いにつなげたい思いから、来訪時に意向や意見を聞き入れるようにしている。「料理に関心があるから、台所を手伝わせて欲しい」とか「目立ち過ぎるのでホームの看板の設置場所を検討して欲しい」などの要望や苦情も聞けるようになってきている。アンケートによる家族意向調査も計画されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は隣接の病院や老健施設の行事にも参加することも多いため、顔馴染みの職員も多い。そのため異動が行われても、利用者の不安やダメージはほとんど見られず、良好な関係を築いている。なお利用者の家族には、広報や行事等で新しい職員の紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行う研修会や学習会に対し、グループホーム職員も適宜参加しているほか、外部研修にも積極的に参加するようにしている。現在NHK学園で受講しながら(職専免)資格取得を目指している職員もいるなど、職員の資質向上に向けた積極的な取り組みの体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会として新たに沿岸北ブロックが創設され、ブロック内の全事業所で合同敬老会を実施するなど、活動や研修会等が推進されており、交流が図られている。今年度は交換研修として職員を派遣することにはなかったが、他ホームからの職員を受け入れている。	○	ブロックにおけるネットワークづくりが行事や研修等に生きるだけでなく、認知症に対する地域理解へと広がるきっかけ作りになるなど、更なる中核的な広がり期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みの際には、ホームの雰囲気を知る機会として見学を受け入れることとしているほか、入院中の申込者には、職員が本人を訪ね、馴染みの関係を徐々に築いている。また、本人や家族を含めて関係者からの情報収集をできる限り行い、サービスを開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開所当初からの利用者の重度化が進み、リクライニング式車椅子やギャジベッドの利用者もいるが、出来るだけみんなと一緒に場に移動して参加できるようにしている。調理場面での包丁の入れ方を教わることや、雑巾つくりの手ほどきを受けるなど、利用者と職員がともに支え合う関係を築きながら穏やかな暮らしをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を十分に言葉で伝えることができない利用者もいることから、しぐさや表情からくみ取るように努めているほか、失語症の利用者には答えやすいような質問の仕方を工夫するなど、利用者本位に検討された支援や対応を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	すべての職員が関わり、24時間の行動記録等から利用者のアセスメントができる方法をホーム独自に作り上げている。また、家族の訪問時には家族から意見等を出してもらいながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月に1回のケースカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。緊急性がある場合には暫定で介護計画を作成し、家族に報告し了解を得て、現状に応じたサービスを提供できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容院への対応、自分が生まれた里や、嫁ぎ先付近へのドライブなど、利用者の要望に応える支援をしているほか、家族の要望で一時帰宅や家族同伴の外出なども行われている。なお、併設病院外の受診や通院は、家族の都合や要望に応じて職員が支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者または家族の希望により、主治医は併設の病院の医師となっており、職員は必要に応じて受診支援をしている。主治医は月に1～2回はホームに往診のため来訪するなど、適時適宜なアドバイスや医療を受けられる環境にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制指針の「重度化」「終末期」「看取り」については本人・家族・主治医の話し合いのもとで決定されることになっている。そのための同意書は既に準備はされているが同意を得た利用者はいない。	○	利用者の重度化が進行している現状から、重度化への対応策が急務であり、介護や援助のあり方について、その対応やマニュアルなどの作成は必要と考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重度化に伴うリクライニング式車椅子、ベッドの利用者や難聴者もいることから、気配り、目配りで早めの対応を心がけると共に、入浴や排泄介助時のプライバシー(羞恥心)には、特段の気遣いや配慮をしている。記録等の個人情報は事務室でしっかりと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、利用者の体調や意思を大切に、伺い型で対応している。特にも、難聴者に対して、耳元で意思や意向を確認して頷きながら、できるところまで自立を促す姿勢で、辛抱強く見守り「今日もできましたよ」と共に喜び合う対応である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付けまで出来る利用者は少ないが、利用者の役に立ちたいという思いを察しながら、出来ることを促し、「今日も出来ましたね」と励ましの声かけをしている。職員も同じ食卓で伴食しながら、利用者のペースに応じた介助や明るい話題に花を咲かせるなど、楽しく明るい雰囲気づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて、一日おきを目処とした入浴となっている。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらしたり声かけをしながら、週2回は入浴出来るように支援し、清潔の保持に努めている。なかには毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、利用者の能力に応じた役割や楽しみことを行うことできるように検討しており、プランターへの植え付けや畑での野菜づくりから収穫まで、家族の協力や利用者からのアドバイスを受けながらの活動を、楽しみや気晴らし支援にもつなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として買い物に出かけているほか、利用者の希望を聞きながら様々な場所にドライブで出かけている。思い出の地や周り景色を眺めたりするなど、楽しみながらの外出となるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に施錠することはなく、動向は玄関に設置しているセンサーでも把握できるようにしている。以前に居室用避難戸から外に出かけたことがあり、安全確保のために居室用避難戸には鍵はかけている。夜間は防犯のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年5回、消防署員の指導のもと行っており、全職員は消火器の扱い方法の訓練は受けている。一方、隣接する同法人施設(病院・老健)との連絡体制も整備され、防災学習などは合同で行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	重度の利用者もいることから、献立については同一法人栄養士からの協力を得ながら、食事や水分の摂取量等については、慎重且つ注意深いチェックや記録による検証となっている。栄養状態の思わしくない利用者には高カロリー食を提供するなど、一人ひとりへの状態に応じた支援となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼談話室はゆったりとした空間になっており、吹き上げの高窓から差し込む自然光が一層暖かさを感じさせる。また、定期的に訪れるボランティアによる生け花が、小上がりや廊下などに飾られ、四季感やしっとりした風情を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出や馴染みの品物を持参するよう勧めているものの、古いものを持参するのが恥ずかしいと家族の思いもあり、お互いに話し合いながら、本人の安心につながるような居室づくりを目指している。中には、馴染みの鏡台や整理タンスを持ち込んだり、友人と一緒に撮った思い出の写真を飾るなど、思い思いの居室づくりをしている。		